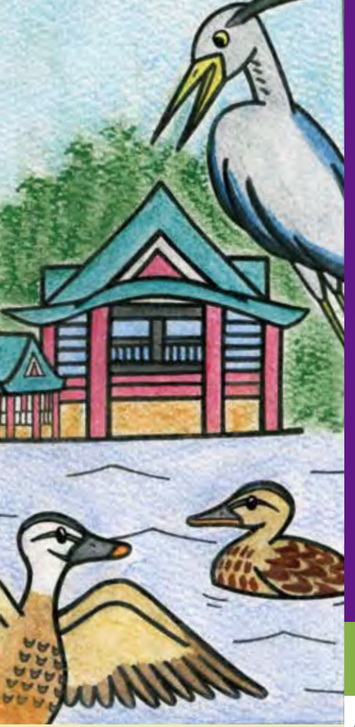


井の頭 いのきちさん

井の頭恩賜公園開園100周年カウントダウン新聞

吉祥寺 三鷹

14号
2014年1・2月号

2014年（平成26年）1月1日

● 編集・発行
いのきちさん編集委員会
編集長　川井信良
東京都三鷹市上連雀 1-12-17
株式会社文伸　気付
電　話 0422-60-2211
ＦＡＸ 0422-60-2200
メール inokichi@bun-shin.co.jp

● 協　力
東京都西部公園緑地事務所
東京都井の頭自然文化園
井の頭恩賜公園100年実行委員会
NPO 法人みたか都市観光協会
武蔵野市観光機構

● 制作支援
株式会社文伸 / ぶんしん出版

井の頭恩賜公園
開園100周年まで
あと3年4カ月

連載 絵本 カモ次郎の巻　その1

井の頭池では、いよいよ「かいぼり」の準備が始まりました。

カメ吉を玉川上水まで連れて行ったカルガモのカモ次郎は、池に来るアオサギからカメ吉やコイ太郎の元気な様子を教えてもらい、嬉しくなって弁天様に皆の無事のお礼を言いました。その時池に渡って来ていたマガモに出会い、カモ次郎はすっかり夢中になってしまいました。

絵と文　せのうさちこ

せのうさちこ　1975年 盛岡市で生まれる。小6で三鷹へ転校。アニメ動画から絵本に進む。三鷹市在住。

INFORMATION　2014年1月～3月

井の頭自然文化園

● **文化園コンサート「February Concert at The Zoo」**
毎年恒例となりました彫刻館でのコンサートを、平成26年2月に開催します。寒い冬、皆さんの心をあたたかくするような音楽を動物園からお届けします。どうぞお楽しみください。

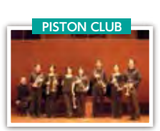
1「クラシックギターで綴る旅」
●日　時：平成26年2月9日(日) 13時30分～　●出演者：新井伴典

2「輝けるトランペットの響き　PISTON CLUB動物園コンサート」
●日　時：平成26年2月16日(日) 13時30分～
●出演者：PISTON CLUB

3「オカリーナとピアノの調べ」
●日　時：平成26年2月23日(日) 13時30分～
●出演者：オカリーナ…大沢 聡・ピアノ…丹内真弓

全て無料の催しです

新井伴典


PISTON CLUB

大沢　聡

丹内真弓

● **彫刻館特設展**
「Animaless Zoo Project INOKASHIRA　在るモノと見えないトコロ 井の頭の動物たち」
井の頭自然文化園をテーマに、油絵、水墨画、彫刻など、様々な素材で、日々変わりゆく文化園の様子や動物たちを表現している、笛田亜季氏の作品展を実施します。新作（200号のはな子の油絵等）あわせて30余点を展示します。
日　時：平成26年1月9日(木)～平成26年4月6日(日)
　　9時30分～16時30分
場　所：動物園（本園）彫刻館B館

詳しくはホームページをご覧ください。http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ino/index.html

井の頭恩賜公園

ネイチャー☆プログラム
ネイチャー☆プログラムとは…次世代を担う子供たちや公園を訪れる人たちに、わかりやすく楽しく「自然の仕組み」を学び遊んでもらうプログラムです。

● グリーンバード（井の頭池付近）	1月12日(日)、1月26日(日)、2月9日(日)、2月23日(日)、3月9日(日)、3月23日(日)
● ツリー☆マジック（第二公園）	1月13日(月)、2月11日(火)、3月8日(土)
● あおぞら実験室（井の頭池付近）	1月19日(日)、2月2日(日)、3月2日(日)
● どんぐり広場（御殿山広場）	3月13日(木)

詳しくはホームページをご覧ください。 http://www.i-np.jp/index.html

井の頭かんさつ会

● **第105回「冬の野鳥観察会」**1月12日(土) 9：00～11：00

事前申し込みが必要です。詳細や申し込み方法はHP　http://www.kansatsukai.net/ に載せます。

アートマーケッツとヘブンアーティストな人々 その14

DOG BRUNAさん（ペットの帽子作家）

お店番は愛犬のBRUNAちゃんも一緒

フェルトのクラシカルなハット、テンガロン風、2色使いのキャップ、海賊がかぶるような三角帽子まで、DOG BRUNAさんの店先にはさまざまな形の帽子が所狭しと並びます。そのどれもが、手のひらに乗るサイズ。ペットやぬいぐるみなどにかぶせるための小さい帽子です。

「飼い主さんとコミュニケーションがとれている子は、帽子をかぶるんです。飼い主さんが喜んでいる顔が、ペットもうれしいみたい」。大きさや重さを選んであげると、犬はもちろん、猫やモルモット、モモンガ、フクロウやアゴヒゲトカゲもちょこんとかぶっておしゃれします。

趣味が高じて、井の頭公園に出店し始めたDOG BRUNAさん。トリマーになるための学校で学んだために、犬の頭の形を熟知しています。型くずれしないように加工を施し、リボンやレース、素材に凝ってバリエーションを増やしてきました。1月に向けて干支にちなんだもの、夏前には祭りやマリンテイストのものなど、季節先取りのモチーフも好評です。

ミニサイズでも精巧な、手づくりの帽子。

小田原 澪（おだわら みお）
編集者・ライター。フィールドは多摩。三鷹市在住。

アートマーケッツは、主に土日祝日に開催しています。 1/4(土)5(日)はお休みとなります。

今月のはな子 14

冬のはな子

冷たい風が身にしみるようになったこの頃、寒さが苦手なはな子には厳しい季節がやってきました。

はな子の寝室にはガス暖房機やサーキュレーター（空気循環器）、冷たい空気を遮断する為のカーテン等、少しでも暖かい室温を保てるような対策が施されています。

この時期でも、穏やかな晴れの日は日向がぽかぽかして気持ちいいのか、今にも寝てしまいそうな顔をしながら日中は外でのんびり過ごしています。室内に入る時間や観覧終了の時間は、その日のはな子の体調を最優先に決めていますのではな子に会いに来て下さった方々にはご不便をおかけすることになるかと思いますが、これからもはな子に健康で元気にいてもらう為、ご理解して頂ければと思います。

そんなはな子も来年1月1日で67歳の誕生日を迎えます。

日本最高齢のはな子。これからも元気で穏やかに過ごして欲しいと思います。

井の頭自然文化園 飼育展示係　久保田夕紀子

井の頭公園の生き物たち その14 ミシシッピアカミミガメ

井の頭かんさつ会　田中 利秋（たなか としあき）　井の頭かんさつ会代表。毎月自然観察会を開催。池の外来魚問題にも取り組む。

ミシシッピアカミミガメ

捨てられたカメ

名前のとおり、米国南部ミシシッピ川周辺が原産のカメで、耳の上方に赤い模様があります。幼体はご存知ミドリガメ、井の頭池のアカミミガメは捨てられたペットかその子孫です。在来のカメたちが10月から4月まで約半年間も冬眠するのに、このカメは冬でも活動するものがいます。丈夫で大きくなり、性質が荒いので、そして産卵数も多いので、生活が競合する他のカメを圧倒して増えています。何度か駆除が行われたにもかかわらず、井の頭池で現在最も数が多いカメです。わずかに残っている日本固有種ニホンイシガメが増えられるようにするにはアカミミガメを減らす必要がある、というのが専門家の意見です。もちろん、数が多ければ捕食される生き物への影響も大です。ヒナなど小さな水鳥を襲うところも目撃されています。大きくなると植物をよく食べるので、井の頭池に水草を増やすのにも障害になりそうです。今は要注意外来生物ですが、環境省は特定外来生物に指定する検討を始めました。

我々は昨年から捕獲テストをしています。カメワナを仕掛けると何匹も獲れたのに、今年冷凍庫を導入して安楽死処分を始めたとたん、ほとんどワナに入らなくなりました。どうしてばれたのか謎ですが、彼らが常に他の個体の動向を把握しているため異変に気付いたのではないかと想像しています。

井の頭池にたくさんいたカメが冬はどこにいるのか、不思議に思っている人もいると思います。彼らは池の底で冬眠しています。喉や腸から水中の酸素を取り込む能力があるので、体温が下がり代謝が低下する冬は肺呼吸をしなくても生きていられるのです。池のかいぼりをしても、カメたちは泥に潜り込んでいるので簡単には見つけ出せません。しかも水がないところも歩いて移動できます。賢くしたたかなアカミミガメとの知恵くらべは今後も続きそうです。動物愛護管理法の罰則が強化されています。絶対に飼っているカメを捨てないでください。

産卵中のミシシッピアカミミガメ

「いのけん」講座 答え合わせ

【伊勢屋伊兵衛】

鰹節製造販売の老舗商店『にんべん』の屋号は『伊勢屋伊兵衛』です。商標の『にんべん』は、この屋号にちなみ付けられたといわれ、江戸時代から町人が親しみをこめて『にんべん』と呼び始めたのが始まりといわれます。
（にんべんＨＰを参考）
http://www.ninben.co.jp/

14 新たな出会い

10月下旬、ふた月ぶりにカイツブリがやって来ました。見かけたとき口笛を吹いたらまっしぐらに泳ぎ寄ってきたので、以前この池で暮らしていたオスだと思います。

11月22日の朝、お茶の水池にそのカイツブリともう1羽がいるのを見つけました。相手を見て水に潜り、浮上するとまた相手を探す、ということをそれぞれが繰り返すので、距離は近づいたり少し離れたり。そしてついに合流すると、鳴き交わすこともなく、写真のようにしばらく並んで泳ぎました。でもそれ以上のことは起きず、2羽は再び離れていきました。彼らはそのとき初めて会い、しかし一目ぼれとはいかなかったようです。初対面の形はさまざまです。

そのときとは組み合わせが違うかもしれませんが、現在（12月中旬）の井の頭池にはカイツブリが2羽いて、先日は一緒に巣材を運ぶ行動が見られたそうですから、カップルが成立したようです。迫る池のかいぼりが気になります。

一緒に泳ぐカイツブリ

井の頭かんさつ会　田中 利秋　http://homepage2.nifty.com/tnt-lab/

楽園はよみがえるか

カイツブリは、得意の潜水で小魚やエビを捕まえる、小さな水鳥です。池や川にカップルで縄張りを作って暮らし、子育てをします。

⑭枚目 イノカ・コガノメ

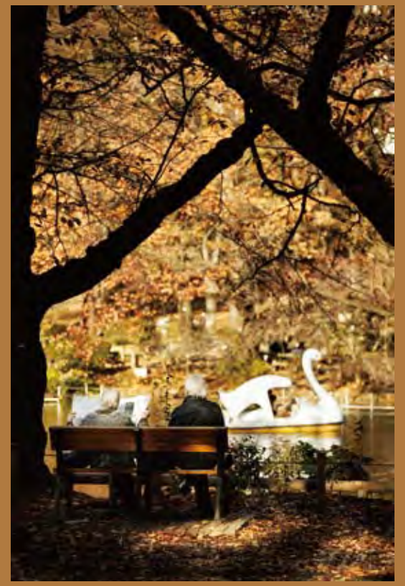


写真　古賀 親宗（こが もとのり）
1983年 福岡県柳川市生まれ。三鷹市在住のフォトグラファー。

『いのきちさん』について

都立井の頭恩賜公園が2017年5月に開園100周年を迎えます。**『いのきちさん』**は、もうすぐ100歳を迎える井の頭公園に、感謝の気持ちを込めて、地域の市民と企業と団体の協力により発刊された100周年カウントダウン新聞です。名称は**井の頭公園の「いの」**、隣接する**吉祥寺の「きち」**、井の頭池が市内となる**三鷹市の三「さん」**を並べたものです。　（奇数月1日の隔月発行です）

『いのきちさん』のホームページができました！更新中！
http://www.inokichisan.com/

スマートフォン対応

「いのきちさん」の感想やお問合せはメールでも受付けています。
inokichi@bun-shin.co.jp

「いのきちさん」を置いていただける所を募集しています。

私と井の頭公園その14

自然が創った大変貴重で尊い池

片岡 友美（杉並区在住）

いよいよこの1月に、井の頭池の『かいぼり』が行われる。池を干して、外来生物を駆除し、池底を天日にさらし、水を入れ替えて水質を良くする作業だ。今回はその作業の一端を担う認定NPO法人生態工房の片岡友美さんに登場してもらった。

井の頭池はただの池ではないのです。はるか昔に地下水が湧き出し、風呂釜のような地形があったおかげで池になり、そこに動植物が住み着いた、正に自然が創った池なんです。今はその痕跡しか残っていませんが、それでも大変貴重な存在で尊い池なんです。今回のかいぼりは、井の頭池の本来持っている自然に、少しでも近づけてあげる大事な事業の一つとなります。

井の頭池のかいぼりの目的は、外来魚の駆除と、水質改善です。ご存知のように、井の頭池には大量のブラックバスやブルーギルなどの外来魚が繁殖しています。それらの外来生物を駆除し、同時にモツゴなどの在来魚を保護し、再び池に戻すのです。もう一つは、池を天日干しにして、泥に含まれている窒素を減らし、新しく入れる水の富栄養化を抑えて水質改善をします。これを2017年の開園百周年に向けて3回行います。

井の頭池のかいぼりは、公園の知名度から、全国の人々が注目しています。同じような悩みを持つ公園も多いので、今回のかいぼりの成果はとても大きな影響を与えると思います。市民ボランティアの参加なども含めて、良いモデルとなればいいと願っています。「井の頭で出来たんだからうちでもやろう」ってね。

でも、根本的な解決は、湧水の復活です。ありえない話にしないで、「やろうよ」と思い、出来るところからやっていきたいですね。

（認定NPO法人 生態工房
理事・かたおかともみ）

（聞き手・川井信良）

川井信良（かわいしんすけ）
70年代、80年代に、三鷹でミニコミ『まちんぴ』や『みたかきいたか』を発行。

よみがえれ！井の頭池 14

歴史的な「かいぼり」、目が離せません！

1～3月に予定されている第一回の「かいぼり」。着々と準備が進められています。

昨年11月から12月にかけては、ボランティアリーダー「井の頭かいぼり隊」の約50名が実技を含む6日間の講習を受け、本番に備えて技術や知識を身につけるとともに、昼食会等をとおして連帯感を深めました。

一方、水を抜いた池で魚を捕ったり記録や分類の作業をしたりする1日限定のボランティア「おさかなレスキュー隊」もかいぼりへの関心の高まりを反映し、12月9日の応募受付開始から約3時間で150人の定員いっぱいになりました。

ただ、この原稿を書いている12月中旬の段階では、池水の排水工事の受注者が決まらず調整が続いています。進捗状況は、『井の頭恩賜公園100年実行委員会』の「公式サイト」で逐次お知らせされます。状況の好転を祈りつつ、要チェックです！

▼去る12月7日の実習で、「かいぼり隊」が胴長をはいて池に入り、ブルーギルなどを捕獲。

井の頭恩賜公園の歩み 第14話

水がきれいな池ってどんな池？

2017年の開園百周年を前に、井の頭池の「かいぼり」の計画が進められています。

池の水をきれいにし、多様な水草や水生生物が棲める環境を整えていくことが課題となっているのですが、その昔、きれいな水を湛えていた江戸時代の池はどんな環境だったのでしょうか。当時の書物を通して探ります。

◀文化13（1816）年発行の『嘉陵紀行』「江戸近郊道しるべ」から

【写真提供：国立公文書館】

抽水植物の葭（よし）▶
【写真提供：田中利秋さん】

「水が澄んでいて、藻がゆらゆらとするのが見えてきれいだった」……水が濁ってしまう高度経済成長期前の井の頭池を知る年長の方々は、みなさんそうおっしゃいます。そのイメージは清々しく魅力的ですが、もっと昔の江戸時代は、それとは異なる水辺の風景だったようです。

例えば、徳川御三卿のひとつである清水家の家臣だった村尾嘉陵は、『嘉陵紀行』でこんなふうに描写しています。蘆荻（ろてき）をも薙薙（かやすすき）をも刈そげねば、池の面も半ばかりは、これがために掩（おほ）はれて、水を見る事少し」

また、小日向の廓然寺（かくねんじ）の住職だった十方庵敬順は『遊歴雑記』にこんなふうに記しています。「池中も立枯の蘆（あし）・葭（よし）の類多くして、こちらよく清流を見がたし、元より打晴れたる処ならねば、更に眺望なく、実にかじけたる僻地といふべし」

当時、池から流れだす「神田上水」の水は、江戸の飲水・生活用水となっていたわけですが、源の池には鬱蒼と水草が生え、清々しい水の流れなど見えないワイルドな沼地だったのです。

水生植物は、水上に茎や葉を伸ばすものも、水面に葉を広げるものも、水中に生えるものも、どれも水中や水底の栄養素を吸収しながら水を浄化します。村尾嘉陵も十方庵敬順も書き残していませんが、おそらく当時は、水中にも多様な水草が生え、それらの植物が多様な水生生物を育んでいたことでしょう。

昭和20～30年代に水中にゆらめいていた藻が、実はひょんなことから広がった外来種だったことを思えば、これから私たちが目指すべきは江戸時代のように水草が鬱蒼とした水辺の風景なのかもしれませんね。

安田 知代

安田 知代（やすだ ともよ）
編集者・ライター。『井の頭公園＊まるごとガイドブック』『懐かしの吉祥寺（昭和29・40年）』編著。

◎前号（13号）の『東都近郊図』は小金井市教育委員会の写真提供でした。

『いのけん』（井の頭公園検定）講座 14

第2回井の頭公園検定試験が無事終了しました

第2回いのけん試験は、2013年12月15日に、1級は武蔵野商工会館で、3・2級は三鷹産業プラザで行われました。
今回は、初めての1級試験の実施ですが、2級合格者の皆さんだけあって、試験に臨む気合が試験官にまで伝わってきました。
さて、どのような問題が出たのでしょうか、井の頭公園検定実行委員会の協力をいただき、特に正解が低かった問題を紹介しますので、挑戦してみてください。

問題　井の頭弁天堂正面の橋の手前に置かれている一対の石灯籠には、台座に『日本橋』と大きく彫られています。
その脇に乾物屋と推測される7人の名前が彫られており、『にんべん』の屋号【　　】の名も見られます。
漢字で空欄に正しい文字を入れてください。

難しい！

答えは裏の面にあります。